



「としよかんライオン」を読んで

猿楽小学校 二年一組 石橋 武知

「ライオンがいるんです！としよかんに！」

このお話では、町の図書館に、とつぜんライオンがやっ  
てきます。

でも、図書館かん長さんは、図書館のきまりまもるなら、  
ライオンがいてもいいと言ってくれます。それから、ライオ  
ンは、毎日図書館にあそびにくるようになります。

ほくも、このお話のライオンのように、図書館が大すき  
です。家の近くの図書館によく本をかりに行くのですが、  
もしそこにライオンが来たらどうだろうと思いました。きっ  
と、びっくりしてにげ出すと思います。

このお話で、ライオンが図書館でおとなしくしていて、  
町にいてもほうっておけるのは、ゆめの中の町だからだと思  
いました。

ある日、たなから本をとろうとした図書館かん長さんが、た

おれてけがをしてしまうじけんがおこります。

ライオンは、図書かんのきまりをやぶってろう下を走ったり、大きな声をあげて、かん長さんがけがをしたことを知らせようとします。でも、きまりをやぶってしまったライオンは、その日から図書かんに来なくなってしまうです。

このライオンは、かん長さんがけがをした時に、走って知らせに行くほどやさしくていいライオンなんだなと思いました。

ぼくは、ライオンはかん長さんをたすけるために、きまりをやぶってしまったのだからとくべつにゆるされて、また図書かんに来られるといいのに、と思いました。図書かんのきまりよりも、けがをした人をたすけるほうがずっと大切だとぼくは思います。

さい後に、図書かんいんさんがライオンを見つけて、図書かんのきまりがかわったことをつたえて、ライオンがまた図書かんに来られるようになったので、本当にうれしかったです。